

赤羽台情報発信施設「URまちとくらしのミュージアム」 に名称を決定。令和5年(2023年)9月開館

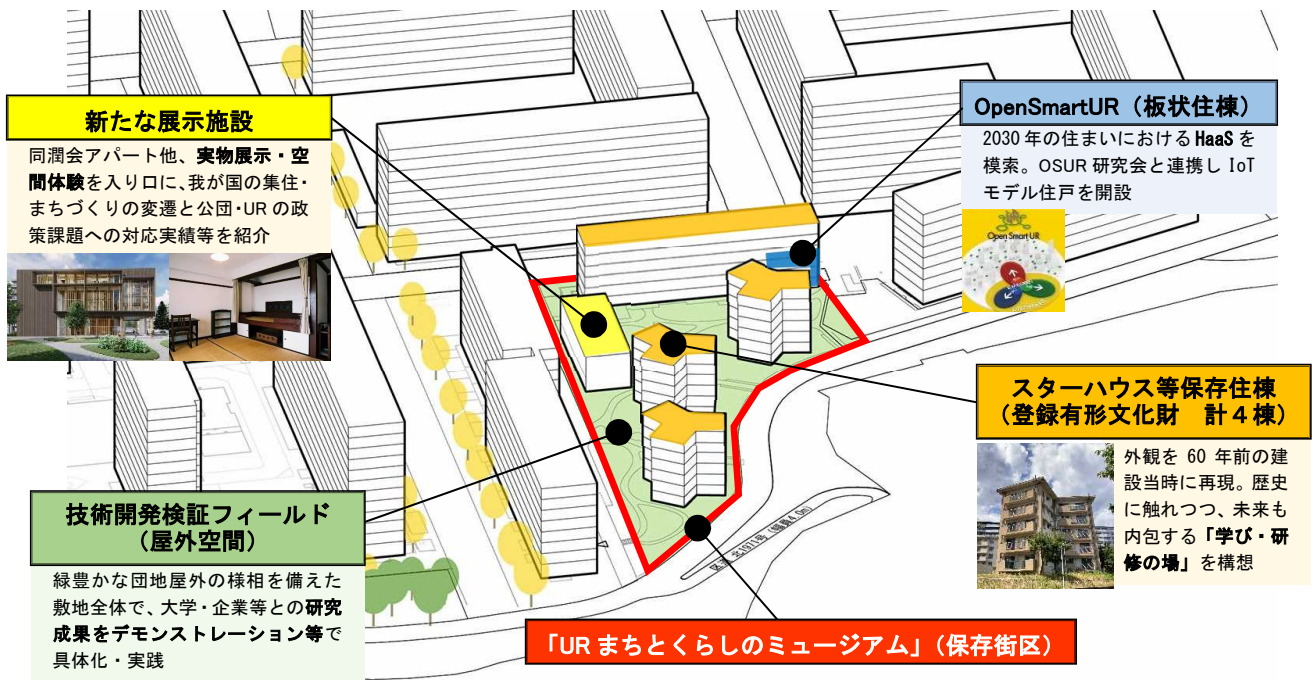
独立行政法人都市再生機構(以下「UR都市機構」)は、ニューヴェル赤羽台(東京都北区)の保存街区で整備中の「都市の暮らしの歴史を学び、未来を志向する情報発信施設(仮称)」(以下「ミュージアム」)について、スターハウス等文化財4棟に新たな展示施設を加えた計5棟、さらに屋外空間を含めた街区全体の総称として、以下のとおり名称を決定しました。ミュージアムの開館は、令和5年9月を予定しております。

また、ミュージアムを紹介する予告動画第1弾を本日公表しましたので、是非ご覧ください。

■名称

URまちとくらしのミュージアム

URが取組む「まち(都市再生等)」と「くらし(団地)」を表現し、我が国の都市の成り立ちやライフスタイルを学ぶ当施設を連想させる名称としました。



「URまちとくらしのミュージアム」の全体像

■予告動画

URL もしくは QRコードからご覧いただけます。

URL : <https://youtu.be/Fmq7dd1cFpk>

今後の動画公開にもご期待ください。



【本件に関するお問い合わせ先】

独立行政法人都市再生機構

技術・コスト管理部技術調査課 電話：045-650-0705

広報室 広報課 電話：045-650-0887

■ミュージアムの概要

「URまちとくらしのミュージアム」は、我が国の住まいとまちづくりを対象とした「都市の暮らしの歴史を学び、未来を志向する情報発信施設」で、スターハウス等保存住棟4棟に新たな展示施設を加えた計5棟、さらに屋外空間からなるUR都市機構の企業ミュージアムになります。

新たな展示施設では、我が国の鉄筋コンクリート造集合住宅の先駆けとなった、同潤会代官山アパートを始めとする4団地計6戸の「再現住戸」を、集合住宅歴史館（八王子市）から移築・設置するほか、壁床4面スクリーン投影による映像展示、模型やパネルを用いて都市と集合住宅の暮らしの歴史や変遷等を紹介します。

スターハウス等保存住棟4棟では、これからの暮らしの提案を行うほか、ストック社会に対応した改修技術等の実証フィールドとして活用します。

保存住棟の1つである板状住棟の一部住戸では、すでに東洋大学情報連携学部（INIAD）との共同研究による未来を志向するIoTやAI等を活用した生活可能な「Open Smart UR」モデル住戸が完成し、今後、実際に生活体験を行い、データ取得・分析（生活モニタリング）による実証実験を進めていきます。

【新たな展示施設イメージ】



外観イメージ



蓮根団地2DK



「まちづくり」展示室



「団地」展示室

【保存住棟（登録有形文化財）】

【位置図】



改修後のスターハウス外観



「Open Smart UR」モデル住戸では実証実験に先立ち、今後、関係者内覧と一般公開を予定しております。

※モデル住戸の詳細はこちら⇒



UR都市機構の歩みは戦後の住宅不足解消に端を発しています。1955年から様々なステークホルダーとともに、時代時代の多様性に即し、安全・安心・快適なまちづくり・暮らしづくりを通して、「人が輝く“まち”」の実現に貢献してまいりました。そしてこれからも、変化する社会課題に挑戦し続けることで皆さまにお応えし、「人が輝く“まち”」づくりに不可欠な存在でありたいと考えております。これまで培ってきた持続可能なまちづくりのノウハウをいかし、都市再生事業・賃貸住宅事業・災害復興支援・海外展開支援に全力で取り組んでまいります。

<https://www.ur-net.go.jp/>



UR 都市機構は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。